

横浜市感染症発生動向調査報告(令和8年9月)

《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が多い状態が続いています。
- インフルエンザの患者報告数がさらに増加し、昨年より1か月半早く注意報発令基準となっています。
- 新型コロナウイルス感染症の患者報告数も増加傾向です。

◇ 全数把握の対象 <2026年8月24日～2026年9月13日に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	15件	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2件
腸チフス	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
E型肝炎	2件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	3件
A型肝炎	2件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4件
エキノコックス症	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
エムボックス	1件	梅毒	14件
マラリア	1件	播種性クリプトコックス症	1件
レジオネラ症	4件	百日咳	3件
ウイルス性肝炎	1件		

- 腸管出血性大腸菌感染症:**10 歳代～60 歳代で、O 血清群は O157 が 7 件、O111 が 1 件、O103 が 4 件、O55 が 1 件、O91 が 1 件、不明が 1 件です。無症状病原体保有者は 6 件です。感染経路等は経口感染と推定される報告が 5 件、経口・接触感染と推定される報告が 1 件、不明が 9 件です。
- 腸チフス:**10 歳未満で、感染経路は経口感染と推定されます。
- E 型肝炎:**50 歳代と 70 歳代で、無症状病原体保有者は 1 件です。感染経路は経口感染と推定される報告が 1 件、輸血からと推定される報告が 1 件です。
- A 型肝炎:**20 歳代と 30 歳代で、感染経路等は経口感染と推定される報告が 1 件、不明が 1 件です。2 件ともワクチン接種歴は不明です。
- エキノコックス症:**30 歳代で病型は単包条虫です。感染経路は動物からの感染と推定されます。
- エムボックス:**40 歳代で、感染経路等は接触感染と推定されます。
- マラリア:**10 歳代で、病型は熱帯熱です。感染経路は蚊からの感染と推定されます。
- レジオネラ症:**60 歳代～90 歳代で、病型はすべて肺炎型です。感染経路等は水系感染と推定される報告が 2 件、不明が 2 件です。
- ウイルス性肝炎:**50 歳代で、病型は B 型です。感染経路等は不明、ワクチン接種歴はありません。
- カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症:**いずれも 70 歳代で、感染経路等は院内感染と推定される報告が 1 件、不明が 1 件です。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症:**40 歳代で、血清型は G 群です。感染経路等は不明です。
- 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む):**すべて 20 歳代で、病型は急性 HIV 感染症が 1 件、無症状病原体保有者が 2 件です。感染経路等は性的接触(同性間1件、異性間1件)が 2 件、不明が 1 件です。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症:**30 歳代～90 歳代で、感染経路等は接触感染と推定される報告が 1 件、不明が 3 件です。ワクチン接種歴は無しが 1 件、不明が 3 件です。
- 侵襲性肺炎球菌感染症:**80 歳代で、感染経路等は不明です。ワクチン接種歴は不明です。
- 梅毒:**10 歳代～60 歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期 9 件、早期顕症梅毒Ⅱ期 4 件、無症状病原体保有者が 1 件です。感染経路等は性的接触による感染と推定される報告が 13 件(すべて異性間)、不明の報告が 1 件です。
- 播種性クリプトコックス症:**80 歳代で、感染経路等は免疫不全その他と推定されます。
- 百日咳:**10歳未満～20歳代で、感染経路等は家族内感染と推定される報告が1件、不明が2件です。ワクチン接種歴は4回が2件、不明が1件です。

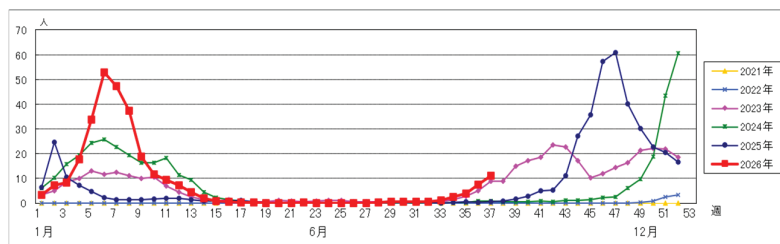
◇ 定点把握の対象

※ 2025 年第 14 週(3 月 31 日～4 月 6 日)以降、小児科定点は 94→51、
内科定点は 59→39 医療機関に変更されました。

報告週対応表	
2026年第35週	8月24日～8月30日
第36週	8月31日～9月 6日
第37週	9月 7日～9月13日

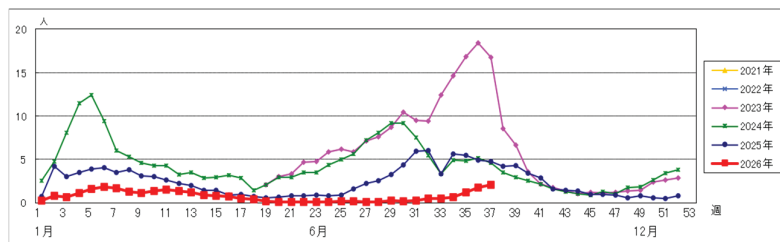
1 インフルエンザ

2026 年第 33 週(8 月 10 日～8 月 16 日)に 1.17 となり、流行期入りの目安となる 1.00 を超えました。その後も報告数は増加し、第 37 週は注意報発令基準となる 10.00 を超え、11.06 となりました。年齢層別にみると、7 割以上が学齢期までの患者で占めています。



2 新型コロナウイルス感染症

2025 年は 10.0 を超えることはありませんでしたが、2026 年は第 35 週(8 月 24 日～8 月 30 日)より報告数が増え始めました。第 37 週は 2.05 となっており、幅広い年齢層で患者が報告されています。



3 性感染症(2026 年 8 月)

性器クラミジア感染症	男性:24件	女性:17件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:17件	女性:10件
尖圭コンジローマ	男性:13件	女性: 1件	淋菌感染症	男性:11件	女性: 3件

4 基幹定点週報

	第35週	第36週	第37週
細菌性髄膜炎	0.00	0.25	0.00
無菌性髄膜炎	0.50	0.50	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.50	0.50	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(2026年8月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	14件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
-------------------	-----	----------------	----

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科・ARI(急性呼吸器感染症) 定点:5 か所、ARI 定点:4 か所、眼科定点:1 か所、基幹(病院) 定点:4 か所の計 14 か所を設定しています。

検体採取は、小児科・ARI 定点と ARI 定点で毎週実施しています。

眼科と基幹(病院) 定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2026 年第 35 週～第 37 週に病原体定点から搬入された検体は、ARI(急性呼吸器感染症) 定点 96 件、小児科定点 6 件、基幹定点 1 件、定点外医療機関からは 1 件でした。

10 月 5 日現在、表に示した各種ウイルスの総数 80 件(うち分離総数 17 件)が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2026 年第 35 週～第 37 週)

診断名	検出・分離ウイルス	総数	うち分離数
ARI	インフルエンザウイルス A型	1	
	インフルエンザウイルス AH1pdm09	19	15
	SARS コロナウイルス 2 (新型コロナウイルス)	10	
	ライノウイルスまたはエンテロウイルス	13	
	ライノウイルス	9	
	RS ウイルス	6	
	ヒトメタニューモウイルス	5	
	パラインフルエンザウイルス 1型	2	
	パラインフルエンザウイルス 2型	1	1
	パラインフルエンザウイルス 3型	5	
	パラインフルエンザウイルス 4型	1	
	アデノウイルス 型未同定	1	
	コクサッキーウイルス A5型	1	
	コクサッキーウイルス A10型	1	
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルス B4型	1	1
	ライノウイルス	1	
	パラインフルエンザウイルス 2型	1	
手足口病	ライノウイルスまたはエンテロウイルス	1	
高サイトカイン血症	パレコウイルス 3型	1	
合 計		80	17

【 検査研究課 微生物(ウイルス医動物) 担当 】

〈細菌検査〉

2026年第35週～第37週の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症18件、腸チフス1件、細菌性赤痢1件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症3件、侵襲性インフルエンザ菌感染症2件、侵襲性髄膜炎菌感染症1件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所からレジオネラ症1件、淋菌感染症2件でした。

病原体定点医療機関からの検査依頼は「小児科定点」からA群溶血性レンサ球菌咽頭炎2件、「ARI定点」から3件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2026年第35週～第37週)

菌株同定		項目	検体数	血清型等	
保健所		腸管出血性大腸菌感染症	18	O157:H7 VT1VT2 O157:H7 VT2 O157:H- VT1VT2 O103:H2 VT1 O145:H- VT2 O111:H- VT1VT2 O55:H12 VT1 Og183:H18 VT1	(5) (5) (2) (2) (1) (1) (1) (1)
		腸チフス	1	Salmonella Typhi	(1)
		細菌性赤痢	1	Shigella sonnei II 相	(1)
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	B群溶血性レンサ球菌 I b型	(1)
		カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3	Enterobacter cloacae complex Klebsiella oxytoca	(2) (1)
		侵襲性インフルエンザ菌感染症	2	Haemophilus influenzae 型別不能	(2)
		侵襲性髄膜炎菌感染症	1	Neisseria meningitidis 血清群B	(1)
分離同定		項目	検体数	材料	同定、血清型
保健所		レジオネラ症	1	気管内喀痰	レジオネラ属菌 培養 陰性 (1)
		淋菌感染症	2	咽頭ぬぐい液	淋菌遺伝子 陰性 (2)
小児科サーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等	
小児科定点	咽頭ぬぐい液	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	A群溶血性レンサ球菌 T25型 (2)	
ARIサーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等	
ARI定点	咽頭ぬぐい液	ARI	3	A群溶血性レンサ球菌 培養陰性 (3) 肺炎マイコプラズマ遺伝子 陰性 (3) 百日咳菌遺伝子 陰性 (3) 百日咳菌 培養陰性 (3)	

【 検査研究課 微生物(細菌)担当 】